

解答解説書

1問に1ページずつ丁寧な解説。
どこよりも詳しく、どこよりもやさしく、
復習ができて力がつきます！

- ◆1問1ページで見やすい
- ◆重要事項や学習のポイントは
ワンポイントアドバイスで再確認
- ◆復習に役立つ内容
- ◆とじこみ付録つき(予定)



これはもう
国試対策問題集!!

内容見本

設問の学習テーマを
示しています。

各設問が出題基準の
どの項目に該当する
かを示しています。

黄疸 目標Ⅲ 大項目-11 中項目-A

必修問題

問題

12 閉塞性黄疸でみられる症状はどれか。

1. ヘモグロビン尿
2. 色素沈着
3. 黄色腫
4. 灰白色便

解説

黄疸は、血中総ビリルビンが、 2mg/dl に増加している状態で、皮膚や粘膜の黄染がみられる。その他の症状は、黄疸の原因によって異なるものがある。

- 1× ヘモグロビン尿は、尿中に血色素ヘモグロビンが出現している赤い色の尿である。溶血の亢進している状態でみられる。
- 2× 色素沈着は、副腎皮質機能不全症であるアジソン病や、副腎髄質にできる褐色細胞腫などでみられる。
- 3× 黄色腫は、家族性高コレステロール血症などでみられる、目瞼の真皮やアキレス腱の細胞に脂肪が蓄積したものである。
- 4○ 灰白色便は、腸管の中に便の色の素となる胆汁が流れていないときにみられる。胆道の閉鎖や胆汁の分泌不全が考えられる。閉塞性黄疸では、そのほかにビリルビン尿、尿中ウロビリノーゲンの減少などがみられやすい。

正答 4

ワンポイントアドバイス

閉塞性黄疸

- 黄疸はビリルビンの生成と排泄の過程に障害が起ることにより出現する。
- 閉塞性黄疸は、肝内外の胆路の閉塞により、胆汁中に排泄されたビリルビンが腸に排泄されず血中に逆流するもので、胆道系のがんや結石、膵頭部がんなどでみられる。

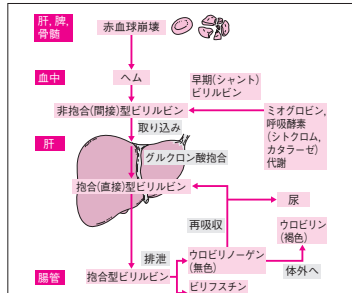
国試過去問題(94回午前13)

黄疸のある患者に起こりやすい症状はどれか。

1. 色覚異常
2. 癢痒感
3. 関節痛
4. 脱毛

原因によって症状は異なるが、尿の色は黄褐色から褐色(ビリルビン尿)になり、皮膚癢痒感がみられるようになる。癢痒は血液中に増加したビリルビンが神経終末を刺激するためである。また、ビリルビンの増加に伴い徐脈が認められることもある。正答 2

●ビリルビンの生成・代謝



(大橋優美子ほか監：看護学学習辞典 第3版、p.540、学研メディカル秀潤社、2008)

“ワンポイントアドバイス”では、関連事項や覚えておきたい知識をイラスト・表を多用して視覚的にわかりやすく整理しています。

関連した過去の国家試験問題を掲載。

イラスト・表を多用して視覚的に理解できるようにしています。

赤シートつき!

○×、正答は、赤シートを使うと隠れます。

選択肢ごとに正誤の根拠を示し、解説を加えています。

受験生の声

類似の国試過去問題が解説書についてるのは学研だけ。国試の傾向に慣れやすい。



- 体裁／B5判
約280ページ(予定)
- 内容／問題、解答、解説、ワンポイントアドバイス + とじこみ付録(予定)